

第八十一回フォト句優秀作品（30年2月13日）





生活保護受けて女は玉はじく (アキヤ)



幾星霜あの日ふたり語り草 (三春)



畳の目数えて欠伸茶の稽古 (三春)



日向ぼこするにもヒラは下の段 (昌康)



七色の光のドレス春隣 (昌康)



(T.IKEDA)

How about Metropolitan Cocktail?



寸評:

1) 雪原に墨絵のごとく湧水(みず)流る 大越 浩平

井の頭公園とはとても思えない景色だ。池のかいぼりをしたあとに降雪があったタイミングをとらえた美しい写真。まさに墨絵を彷彿とさせる。

2) 惱殺はウイグとウインク併用で 中村 晃也

新宿サブナードの鬘ショップ。ウイグとウインクの措辞が効いている。

3) 生活保護受けて女は玉はじく 中村 晃也

女性ばかりが並んでパチンコをしている風景を皮肉ったもの。

4) 幾星霜あの日二人語り草 三 春

ウサギと亀が思い出にふけっている背中姿。夫婦でもこんな情景があるのでは？

5) 暁の目数えて欠伸茶の稽古 三 春

由緒ある茶碗とも思えないが、茶碗を大写しにして撮ったセンスを買おう。撮影時の姿勢も容易に想像できる。

6) 日向ぼこするにもヒラは下の段

松田 昌康

ヌクヌクと日向ぼっこをしている鳩の集団のうまい場面を撮ったものだ。句をみてかつてのサラリーマン時代を思い出し、思わず笑ってしまった。着眼点の勝利だ。

7) 七色の光のドレス春隣り

松田 昌康

噴水に光があたり虹彩が見えるが、そこをうまく捉えた。作者はもともと写真は上手いが、最近作句も長足の進歩が伺える。光のドレス もよいが、季語が適切で充実した作品に仕上がった。

8) How about Metropolitan cocktail?

池田 隆

横文字の句には驚いた。グラスに映った高層ビルを適格に捕らえ、ぼやかした背景で高度感を現わした異色の作品になった。

9) 雪の下がまんの日々もあとわずか

長尾 進一郎

一見なんでもないような場面だが、積雪の陰影をうまく捉えた美しい画面だ。わずかに頭を出した植栽がなにかを語りかけていると見立てた。句はやや平凡だが、これもサラリーマン時代のことを思いだしているのか？

一年のはじまりなので、今月は入選作を増やしました。



今回は新田さんの出題、奈良県の観光キャラ「セント君」の写真。

1) 御前さま女房の角を思い出し 池田 隆

女房の角はもっと尖っているのでは？

2) 遷都シカないよ東京揺れ多発 田中 みづえ

セント君という名前と鹿の角をうまく句に盛り込んでいる。

3) クマモンやフナッシーには敵わない 中村 晃也

セント君は、知名度の点では圧倒的に両者に敵わない。可愛げのないグロキャラに見えるのだが？